

この3月21日で新柳川市が誕生して満4年となります。石田市政も任期満了を迎えようとしております。この4年間は、ピアス問題をはじめ、旧大和町にまつわる問題で、議会が混乱し、柳川ホテル跡地問題など新たな問題も含め、市長および市長派議員と反市長派議員の対立が続いてきました。

その任期の最後の議会である3月議会は、4月12日の市長選挙を控え、通常より前倒しで2月24日から3月16日まで開催されました。

今議会では、100年に1度と言われる世界的金融危機のなかで、政府の景気対策に関連したものや、来年度の予算などが審議されました。

また、これに先立ち、1月30日に、臨時議会が開催されました。

以下、一連の動きを含め主なものをご報告いたします。



柳川市議会議員
佐々木創主

佐々木創主議会報告(23号)

平成21年第1回臨時議会 会期：1月30日

○柳川市暴力団等追放条例が制定されました

今年の1月20日に、西鉄柳川駅前の飲食店で暴力団幹部が発砲されるという事件が起きました。報道によると、暴力団同士の抗争との関係も取りざたされているため、執行部が県警・市民団体と協議する中で、早急な条例整備の必要性から制定されたものです。

この条例では、暴力団などの追放のための行政と市民の責務などをうたい、市内部に警察官OBを配する市民相談窓口を設けるなど、新たな取り組みも盛り込まれております。

議会では、この条例文が先行して制定されている直方市のものと瓜二つであり、柳川市独自のものとなっていないなど指摘がありました。

また、既に市内にある5ヶ所の暴力団事務所への対応など、これからの具体的対策に対し行政のリーダーシップが求められます。

○前議長の辞職を受け、新議長が選出されました

田中雅美前議長が1月14日に議長を辞職したことを受け、議長選挙が行われました。投票の結果、龍益男氏が議長に選出されました。

投票結果 龍益男 17票 木下芳二郎(柳志会)9票 古賀澄男(公明党)2票 無効1票

○田中雅美議員辞職勧告決議案

この臨時議会で、3名の議員から田中雅美議員の辞職勧告決議案が提出されましたが、議案として審議するのかを問う採決が行われ、採決の結果、賛成少数となり、審議されませんでした。

昨年の11月、田中雅美議員が経営する食品会社が食品偽装に関係していたことが発覚し、県から指導を受け、長崎県警が捜査していることが報道されました。このことを受け、12月定例議会で、辞職勧告決議案が提案されましたが、賛成少数で議案として取り上げられませんでした。

その後、12月31日に自らの後援会忘年会で、後援者をビール瓶で殴りケガをさせていたことが判明し、続いて、その忘年会に暴力団幹部が出席しており、その暴力団幹部が柳川駅前で発砲されるという事件まで起こりました。

この一連の事件は、新聞・テレビでたびたび取り上げられ、市民の間からも辞任を求める声も上がっているなか、この臨時議会で再度辞職勧告決議案が提出されたわけです。

結果的に、12月議会同様に上程否決となりましたが、今回は賛成13、反対15という拮抗した結果でした。その賛成・反対の議員の実名が新聞にも報道されていたことから、市民の関心の高さが伺えます。

私は、これまで、良識と自分の信念に基づき行動してまいりました。したがって、この決議案に賛成いたしました。

しかし、反対した議員の中には、議会内での自分の立場と市民との間で、最後まで心が揺れ動き、どう行動するのか苦悩する姿もありました。

この件は、大きく報道されました。市民が大きく注目しました。同時に、これまで4年間続いてきた市長および市長派議員と反市長派議員の対立、市長選を目前に控え、格好の材料となったことも事実だと思います。

平成21年第2回定例議会 会期：2月24日～3月16日

○平成20年度一般会計補正予算（第4号）が賛成多数で可決しました

今回の補正予算は、年度末の予算調整と、昨年来の世界的な金融危機による景気低迷に対する国の景気対策のための第2次補正予算が成立したことを受け、定額給付金などを追加するものです。

歳入歳出とも、12億9,103万4千円が追加され、予算総額が280億6,836億4千円となりました。

国の第2次補正予算に関連したもの

国は、平成20年度第2次補正予算で4兆8千億円の景気対策、生活対策のための予算を盛り込みました。国民的な議論となった定額給付金（2兆円）、高速道路料金の引き下げ（5000億円）や、雇用創出事業などです。

柳川市に交付されるのは総額15億8178万9千円で、以下その活用内容をご紹介します。

◇地域活性化・生活対策臨時交付金活用事業

事業名	事業費	内容
小学校校舎耐震診断	7330万円	昭代第1小、昭代第2小、蒲池小 豊原小、中島小、大和小 矢ヶ部小、垂見小、二ッ河小、中山小
中学校校舎耐震診断	2670万円	昭代中、蒲池中、三橋中
三橋中学校グラウンド整備	4500万円	同グラウンドは、排水機能が悪い ため雨が続きと数日間使用が できなかつたため改善が 求められていたもの
消防車購入費	2650万円	3台分（8分団1部、9分団3部、14分団1部） 購入から15年以上経過したもの
救急車購入費	3600万円	1台分
道路新設改良費	1200万円	角田下中ノ丁線（大和町）
	1000万円	五反田佐屋ノ前線（三橋）
高田町永松開線道路整備費	2000万円	柳川（JA柳川昭代支所～七ッ家カントリー）
観光道路案内板設置	1800万円	5か所
基金積み立て	1億500万円	平成21年度の市の単独事業に活用
合計	3億7250万円	実際の交付額は3億5千万円ですが、入札による 不用額を見込んでいます

この交付金事業によって、本来平成21年度以降に計画されていたものが、すべて国の費用によって前倒しで行うことができることとなります。

この中で、小中学校校舎の耐震診断は、昭和56年以前の旧耐震診断基準の建物で、建て替え計画がないものが対象となっていますが、建て替え計画がある校舎（城内小、二ッ河小、垂見小、中山小、大和中）は昭和46年以前に建てられたもので、今回の耐震診断が行われるものより古く、安全性の面からも、より早急な対応が必要なものです。

この件は、後に述べる平成21年度一般会計予算にも関連しますが、柳川市にとって大きな課題

のひとつです。

また、柳川市にとって道路の維持補修費同様に恒常的に必要なのが水路の維持補修費ですが、この中には盛り込まれませんでした。したがって、基金積み立ての中から優先的に活用するよう求めました。

◇定額給付金交付

事業総額：11億4225万6千円

交付対象：平成21年2月1日時点で住民登録されている市民

交付額：12,000円（19歳～64歳…41,718人）

20,000円（18歳以下…12,976人、65歳以上…19,105人）

交付時期：4月下旬（4月上旬に申請書が郵送されてきます）

◇子育て応援特別手当

事業総額：4345万9千円

交付対象：同じ世帯に3歳以上18歳以下の子供が二人以上いる家庭で、3歳から5歳までの第2子以降の子供（1150人）。

交付額：一人当たり36,000円

◇母子家庭自立支援給付金

高度な職業訓練を受け、資格を取得しようとする母子家庭の母に対する生活費の助成で、助成期間が今回の補正で就業期間の後半の1/3から1/2に拡大し、月額10万3千円（18ヶ月限度）助成されます。

○平成21年度一般会計予算が賛成多数で可決しました

この平成21年度一般会計予算は、平成21年4月から平成22年の3月までのものですが、今回4月12日に市長選が行われるため、人件費や物件費、福祉関係など義務的経費と継続して行われているものに限定して編成されております。

新たな道路や箱物建設など政治的判断のいるものについては、選挙で選ばれた市長の意向を盛り込み、6月に補正予算で追加されることとなります。

予算総額は、歳入歳出とも249億3000万円で、平成20年度に比較して、9億3800万円（3.6%）の減額となっています。

まず、歳入では、昨年来の景気の大きな落ち込みなどにより軒並み減額となっています。

市民税は、個人住民税が5,000万円、法人税が9,600万円のいずれも減額、固定資産税は3年に1度の評価替えにより1億1500万円の減額。

預金利子による利子割り交付金、株式配当からの配当割交付金、消費税からの地方消費税交付金、自動車取得税交付金など大幅に減額しています。

国・県の支出金は政策的新規事業が計上されなかったため、減額傾向ですが、国庫支出金は、土地区画整理事業などの継続事業と、生活保護費の増額などによりほぼ同額となっています。

また、市債（市の借金）は景気低迷による市税などの減額を補填する国からの援助が盛り込まれているため、増額となっています。

次に歳出は、まず人件費は、行政改革により職員数が昨年より12人減る（16人採用、28人退職）ため減額となっています。

普通建設事業費は、骨格予算のため新規事業が盛り込まれていないため、大幅減となっています。

公債費（市の借金の返済費）は、合併した自治体に認められる有利な制度である合併特例債の返済が始まったことなどにより増額しています。

歳入予算

単位：万円

	平成 21 年度		平成 20 年度	増減
	予算額	比率	予算額	
市税	643,289	25.8%	665,680	△3.4
地方譲与税	33,400	1.3%	36,200	△7.7
利子割交付金	3,800	0.2%	4,000	△5.0
配当割交付金	1,000	0.0%	3,600	△72.2
株式譲渡所得割交付金	350	0.0%	1,500	△76.7
地方消費税交付金	60,000	2.4%	63,000	△4.8
自動車取得税交付金	12,700	0.5%	18,000	△29.4
地方特例交付金	6,780	0.3%	6,880	△1.5
地方交付税	788,460	31.6%	805,000	△2.1
交通安全対策交付金	1,500	0.8%	1,600	△6.3
分担金・負担金	44,127	1.8%	45,894	△3.9
使用料・手数料	36,111	1.4%	36,709	△1.6
国庫支出金	335,119	13.4%	332,110	0.9
県支出金	188,797	7.6%	205,296	△8.0
財産収入	5,252	0.2%	6,567	△20.2
寄附金	1	0.0%	1	33.3
繰入金	64,164	2.6%	92,558	△30.3
繰越金	1,000	0.0%	15,000	△93.3
諸収入	71,539	2.9%	62,264	14.9
地方債	195,610	7.8%	184,940	5.8
合計	2,492,999		2,586,799	△3.6

歳出予算

単位：万円

	平成 21 年度		平成 20 年度	増減
	予算額	比率	予算額	
人件費	486,779	19.5%	501,535	△2.9
物件費	280,377	11.2%	277,239	1.1
維持補修費	14,997	0.6%	16,470	△8.9
扶助費	535,100	21.5%	532,956	0.4
補助費	190,466	7.6%	218,627	△12.9
公債費	362,540	14.5%	344,275	5.3
積立金	3,491	0.1%	2,850	22.2
投資及び出資金	250	0.0%	1,520	△83.6
貸付金	42,147	1.7%	32,147	31.1
繰出金	280,878	11.3%	276,618	1.5
普通建設事業費	295,972	11.9%	382,560	△22.4
補助事業	150,532	6.0%	175,795	△14.4
単独事業	112,524	4.5%	178,698	△37.7
県営事業負担金	32,016	1.3%	27,432	20.0
他団体事業負担金	0		634	△100
災害復旧費	0		0	—
補助事業	0		0	—
歳出合計	2,492,997		2,586,797	△3.6

今回の予算は、冒頭申し上げたとおり、骨格予算であるため、新規の道路建設や農業関連建設費、小学校建設などが盛り込まれておりません。従って昨年に比較して、9億3800万円少なくなっています。

4月12日の選挙で選ばれる市長の判断により編成される補正予算では、積み残し分も含め恐らく9億円ほど追加されることになると思います。そうすると、景気低迷の折、その財源をどこから捻出するのか悩ましい問題です。

判断できなかつたのか

柳川市は平成17年に合併した自治体です。国からの合併特例債や地方交付税などの優遇措置を活用できる10年間で、計画的に投資事業を行っていかなくてはなりません。それが1年執行が遅れると、1年ずつ後に影響してくることになります。

そういう意味で、補正予算のところで述べた昭和46年以前に建てられた学校の校舎の建て替えは、大きな事業費が必要です。これまで、平成17年度以降、改築、建て替えが完了したのは皿垣小学校、藤吉小学校の2校だけです。残るのは、5校（城内小、二ツ河小、垂見小、中山小、大和中）あります。

次の予定として、城内小学校が予定されています。すでに基礎的な調査と計画はできており、今回の予算に盛り込めば、平成21年度の1年で終わることができたということです。骨格予算という理由だけで盛り込まれなかつたため、6月の補正予算で計上されることになってしまいますが、完成が平成22年度にずれ込むことになってしまいました。そうすると残りの4校への着手も1年ずつずれ込むことになってしまいます。

ということは、合併特例債を活用できる平成26年までにすべてを完了できるのか、出来ないとなると市の財政に大きく影響することになってしまいます。

執行部に対し、このことを指摘しましたが、納得できるだけの返答はありませんでした。この判断の誤りが後に大きく影響することを危惧すると同時に、しっかりと指摘をしました。

○柳川市の平成 21 年度各会計予算

名称		平成 21 年度	平成 20 年度	比較	増減率
一般会計		249 億 3000 万円	258 億 6800 万円	△9 億 2800 万円	△3.6%
特別会計	国民健康保険特別会計	97 億 9400 万円	98 億 200 万円	△800 万円	△0.1%
	老人保健特別会計	3400 万円	12 億 8100 万円	△12 億 4700 万円	△97.3%
	後期高齢者医療特別会計	8 億 9300 万円	8 億 4300 万円	5000 万円	5.90%
	下水道事業特別会計	10 億 6124 万円	14 億 8205 万円	△4 億 2081 万円	△28.4%
	住宅新築資金特別会計	1618 万円	842 万円	776 万円	92.10%
	公共用地先行取得特別会計	5 千円	5 千円	0	0.00%
合 計		367 億 2843 万円	392 億 8448 万円	25 億 5605 万円	△6.5%

企業会計	水道事業会計	平成 21 年度		平成 20 年度	
		収入	支出	収入	支出
	収益的収支	13 億 711 万円	12 億 6076 万円	13 億 6564 万円	13 億 4732 万円
	資本的収支	3 億 2884 万円	8 億 7293 万円	4 億 4918 万円	9 億 1071 万円

○こんにちは赤ちゃん事業がはじまります

生後 4 ヶ月までの乳児のいるすべての家庭を、保健士や助産師が訪問し、様々な不安や悩みを聞き、情報提供を行い、母子の心身の状況や養育環境を把握、助言を行い、必要な場合は支援を行います。このようにして、乳児家庭の孤立化を防ぎ、乳児の健全な育成環境を図というものです。

○大橋恭三議員辞職勧告決議案

この 2 月に、大橋恭三議員の兄弟が代表を務める企業が、市の政治倫理条例に違反して市の公共工事を受注していたことが報道され、大橋議員は、その責任をとって議会運営委員会の副委員長を辞任しました。

柳川市の政治倫理条例は、一昨年に議会が提案し制定されたもので、市長ほか三役と議員の二親等以内の親族が代表を務める企業の市の公共工事受注や物品納入などを禁止しています。

従って、今回の件は二親等である兄弟が社長を務める企業が、市の土木工事を受注しているため、政治倫理条例違反となります。

ところが、この兄弟は平成 18 年 10 月まで市議会議員を務めており、市の職員が大橋恭三議員との兄弟関係を知らないはずがありません。工事発注以前の指名業者への申請段階で、資格がないことを指摘すべき話で、行政内の指名業者選定の甘さというか、ミスと言わざるを得ません。

しかし、政治倫理条例違反を犯したことは紛れもないことで、十数名の議員の連名で辞職勧告決議案が提出され、採決の結果、賛成多数（一人反対）で可決しました。

ただ、政治倫理条例にも、辞職勧告決議にも拘束力はありません。本人の意思に委ねられております。現在までのところ、大橋議員は議員辞職していません。

踏み絵

大橋恭三議員が、政治倫理条例違反の責任をとって、議会運営委員会の副委員長を辞任したため、私が、その後任として選ばれました。

議会運営委員会とは、その名の通り、議会の日程や議事の進行など、議会の運営に関することを所管する委員会です。

最初、この打診を受けた時は、これまで続けてきた混乱する市議会で出番の多い議会運営委員であり、偏ったメンバー構成であることから、ためらいもありましたが、断る理由もなく、これも勉強と

引き受けることにしたわけです。

しかし、その前に踏み絵を踏まされるようなことがありました。詳しくは述べませんが、これまで対立と混乱が続いてきた市議会です。私は、どちらにも偏ることなく是々非々を貫いてきました。その腰を折らせるような踏み絵であったわけですが、毅然と断りました。

この議会で、石田市政 4 年間の最後の議会が終了しました。

これまで、市議会の混乱、石田市長及び市長派議員と反市長派議員の対立を、この議会報告でも取り上げてきました。

内容はいまさら申し上げませんが、私が申し上げてきた象徴的な言葉を上げてみたいと思います。

- ・ 片方が拳を上げれば、もう一方も拳を上げる。
- ・ 対立している片方の言い分を聞くと、なるほどと思うが、もう一方の言い分を聞いて見ると、片方だけが悪いばかりではない。
- ・ どちらかといえば、提案権と執行権のある市長のほうが、手を広げて受け入れるなら、反発もできないから、もう少し展開も変わるだろうに。
- ・ 攻撃に対する報復、応酬の構図で何を生み出すというのか。

以上に上げられないほど、いろんなことがありました。

まず、石田市長が選ばれた市長選以降、市議会の雰囲気ガラッと変わったことは事実です。それは、市長選のシヨリかもしれません。それ以前に、根本的に旧大和町から引きずってきた問題と、石田町長と大和町議会との対立が根底にあったと思います。それが、そのまま新柳川市に持ち込まれたように思います。

それと、ピアス問題に絡んで、この混乱した状況の原因を聞かれたときの大泉副市長の言葉が印象的でした。「旧大和町議会で議決したことを、新柳川市議会が今更ながら問題としていること。旧大和町の執行部が、ピアスの鑑定評価を鵜呑みにし、購入していること。」つまり、お互い様ということです。

4 月 12 日には、次の 4 年間で市長が選ばれます。

今の柳川市に突きつけられている課題は待ってはくれません。合併して 10 年間、残すところ 6 年間で、国の優遇策を活用して、懸案事項の解決と、明日の柳川に向けた都市基盤を作っていかななくてはなりません。そして、都市計画マスタープランも出来上がり、住んでよかった、これからも住み続けたいと思えるようなまちづくりをしていかななくてはなりません。

その牽引車が市長であり、その是非を見極め、後押ししていくのが議会です。

市長たるもの、まず能力と熱意が問われます。柳川市のまちづくりの確たるヴィジョンも求められます。リーダーシップも必要です。同時に懐の広さと人間性も求められます。職員に対する厳しさと同時に、信頼し、仕事を任せ、最後の責任を取れるだけの度量も必要です。そして、議会に迎合するような人ではいけません、独善的であってもいけません。

しかし、そんな理想的な人はいないかもしれません。

いずれにしても、4 月以降、執行部と議会が一体となって、明日の柳川創りに邁進できるよう願って止みません。

平成 21 年 3 月 16 日
柳川市議会議員
佐々木創主

柳川市新外町 119-2
TEL:0944-74-1907
FAX:0944-75-6058
e-mail:soshu.s@nifty.com
<http://homepage3.nifty.com/soshu/>